

2014年度 早稲田大学 教育学部

日本史 解答例

I 古代の信仰 <易>

問1 ふとまに、盟神探湯 問2 五行 問3 エ 問4 ア

問5 オ 問6 イ 問7 ウ・エ

問6 空也上人像はインパクトの強い彫刻だが、何を持っていたかまで正確に覚えていただろうか。しかしそれより重要なのは、源信の著した『往生要集』が宋に送られたという事実の方である。早慶上智レベルの難関大では、これくらいの知識は必要である。けっして難問ではない。文化史用語は、どういう内容まで覚えていなければならないかが判断しづらい。このため、過去にどれだけの大学で出題されてきたか、という出題データで判断するのが合理的だ。

II 花押の歴史 <やや難>

問1 エ 問2 オ 問3 ア 問4 イ・ウ 問5 イ

問6 ウ 問7 小山朝政 問8 大友義鎮〔大友宗麟〕

早稲田予備校では、入試直前期の早大対策講座で、図2の文書を黒板に絵まで描いて紹介していた。問3も早大入試のためだったら知っておくべき内容だった。また問8は「やや難」レベルの問題だが、夏期講習の早慶大向け講座で、印判を板書して説明することも多い。よって難問は、問4・5・7。

III 江戸時代の村社会 <難>

問1 郡 問2 国役 問3 オ 問4 イ 問5 ア・エ

問6 エ 問7 オ 問8 ア・ウ 問9 ア・イ 問10 エ

未見史料だが、史料をよく読解すれば問1・5は正解できる。問3は下線部分だけで判断すると正解が得られない。史料では、凶作時に米を江戸に廻米してしまうと、「買い食いの者」つまり穀物を購入しなければならないような貧農・小作たちの生存が脅かされてしまう、と書いている。それがわかると、選択肢のなかで「在方商人」だけが、貧しくないため仲間はずれだということが浮かび上がる。

IV 近現代の民衆運動 <やや難>

問1 交詢社 問2 与謝野晶子 問3 第五福竜丸 問4 イ
問5 ウ 問6 オ 問7 ウ

母性保護論争はマイナーだが、早稲田予備校では直前講習の「女性史」の授業で説明していた。早稲田入試では女性史対策は欠かせない。しかし問6は、とくに選択肢エ・オで悩まされただろう。

V 太平洋戦争期の国民 <やや難>

問1 ウ 問2 徴用 問3 ウ 問4 花岡 問5 ウ・カ 問6 エ

教育学部では太平洋戦争についての細かい数字がよく出題されている。それでも問3・5・6は難問と言えるだろう。

講評

全体的に非常に難しい問題であった。早稲田大学の日本史の問題を全学部20年分くらい精密に分析すると、よく出るテーマが見えてくる。たとえば「花押」の問題など、ズバリ出題されていたわけだが、それでも他の難問にへこまされただろう。難問に振りまわされず、それ以外の問題で得点できれば十分と考えよう。